

第40号

発行所 大阪市史跡 龍溪禪師墓所  
 靈亀山 九島 禪 院  
 ☎550-0022大阪市西区本田3丁目4-18  
 ☎06-6583-2725  
 発行人 住職 奥田啓知(智證)

# 龍 灯

阪神西大阪線難波延伸工事・平成十五年に着工決定！

## 拉致問題と仏教説話

### 永住帰国は拉致被害者本人の意思で

北朝鮮による日本人拉致問題の解決に曙光がみられたのにもかかわらず、クアラルンプールでの日朝国交正常化交渉は不調に終わりました(十一月三十日現在)。拉致被害者五人が北朝鮮に残している子供たちやご主人の早期帰国や北朝鮮が「死亡」としている被害者八人についての死因などの疑問点に関する明確な回答も言質をとることができませんでした。

北朝鮮をめぐる問題が、時々刻々と変化する世界情勢のなかで硬直化が懸念されます。拉致問題の解決、とりわけ拉致被害者が北朝鮮に残してきたご家族の帰国が急がれます。今回の決定には日本政府や拉致被害者の家族の意思が強調され、北朝鮮に残してきた家族を思っただけか、拉致被害者本人のお気持ち当初、明確ではありませんでした。インドにこんな神話があります。アスラとインドラという神様がいました。アスラは正義の神で、インドラは力の神です。

アスラには美人の娘スジャータがあり、娘をインドラに嫁がせたいと願っていました。ある日、インドラは美しいスジャータをみかけると、暴力で犯し、自分の宮殿へ連れ帰りました。

怒ったアスラは軍勢を集めてインドラに戦いを挑みました。敗れても敗れても執拗に戦うのでした。面倒になったインドラは、正義の神のアスラを神々の世界である天界から追放し、魔界に落としました。仏教はこの神話にもとづいてインドラを帝釈天と呼んで護法の善神とし、アスラを阿修羅と名付けて魔神にしてしまいました。

正義の神がなぜ魔神になったのでしょうか。過去のことをいつまでも根に持って、他人を赦さないでいる阿修羅の狭量さを仏教では不可としたのです。なぜなら、帝釈天に犯され拉致されたスジャータは、のちに幸福な帝釈天の妻になって妃になっっているのです。たしかに、



北朝鮮に残してきた子供について、記者の質問に答える蓮池薫さん。妻の柘木子さんは思わず涙ぐんだ。=25日午後4時30分、新大阪駅構内

帝釈天の最初の行動はよくないにしても、過去の出来事をいつまでも根に持って、みずからの正義にこだわり続けている阿修羅の狭量さのほうがかえって恐ろしい。仏教はそのように教えるのです。

北朝鮮での二十五年という歳月の重み。絶望のなかで築き上げた幸せ。地村夫妻と蓮池夫妻曾我ひとみさん、それぞれ事情がちがいが、一概には論じられませんが、その幸せは今、日本政府や肉親によって壊されようとしています。

勿論、拉致事件は北朝鮮による国家犯罪であり、現状回復は当然の要求ですが、拉致被害者家族の永住帰国に関しては、拉致被害者本人の意思を無視するわけにはいきません。北朝鮮に残しているご家族の帰国を実現し、北朝鮮の呪縛から開放したのち、彼らの結論をそっと待つのが寛容かと思えます。

